

有賀鐵太郎（あが かねたろう）キリスト教神學者、文學博士。明治二十一年四月一日大阪生れ、昭和五十二年五月二十五日歿（一九九一―一九七七）。大正十一年同志社大學神學部卒。同大教授を経て京都大學教授。

著書『コオリゲネス研究』（昭和二十一年十一月二十日全國書房）、

『歴史の反省』（合著・青丹會編、昭和二十二年一月十五日京都・永

田文目録）、『原子力時代に於ける基督教―新島講座記念論文集』（編、

昭和二十二年一月十五日京都・聖光社）、『バルトとニーバーの論争』

（阿部正雄共譯、昭和二十六年八月十五日弘文堂「アテネ文庫」）、

『歩みは光のうちに』（記念版）』（昭和五十二年十一月十二日有賀鐵

一刊、日本基督教団出版局）等。

